

四月二十九日

昨日は午後、早稲田の国際会議場井深記念ホールで『批評と理論』出版シンポジウム、「丹下健三あるいは建築状況二〇〇五」出席。磯崎新、鈴木博之、福田和也の論客達の司会を務めた。十三時半から十六時半迄。終了後大隈会館でシンポジウム手伝いの学生達を交え小パーティー。その後、磯崎さん達と六本木の「五穀」で和食焼酎。磯崎さんはアガ・カーンのユーラシア・プロジェクトの進め方に独特な方法を考えているらしいというのが、新しい展開だな。二十三時過世田谷村に戻った。〈BR〉

今日は午前中、屋上菜園に上り、土いじり。日射しが強い。尼崎JR脱線事故は死者百人を超える大惨事となった。ハイテクの矛盾を示した事故だ。人間は技術的成果を充二分に制御できる程有能ではない。つまらぬ事であせったり、逆上したりの弱い生物である。弱い生物であるのを露呈した二三才の運転士の逆上によって、百名を超す生命が失われた。いつか近未来、新幹線が二百km超の速度を全開している途中で事故を起こしたらと考えると恐ろしい。恐らく現実にはアクシデントと紙一重の境界線上を走っているに違いない。あらゆる便利は危険に通じる。

昼、昨日バルセロナの丹下敏明氏から松坂屋山田日出夫氏東京店栄転の話しを聞き、電話してみる。山口勝弘氏訪問の約束。十五時前たまプラーザの山口勝弘氏訪問。ヴェトリノ又の北京プロジェクトへの応用を相談するも、困難そうである。一時間半程話して、そろそろ帰ろうかという時、突然先生は「この絵持って帰

って」とおっしゃった。壁に掛けてある、「スペインの夕餉アダージョ」という題をつけられた、それは美しい小品である。大分以前にも、別の絵だったがもし気に入ってくれたら、あげるよ、と言われた事があり、その時は遠慮して、いただかなかった。いまでも時々、その遠慮を悔やむ事があって、自分の気の小ささを悔やんでいたの、今度はかりはすぐ、いただきますと率直に言った。おだやかな色合いの抽象画で、毎度、たまプラーザに来る度に、いいなと思っていた絵なので本当に嬉しい。山口勝弘さんの気が変わらぬうちに、そそくさと持ち帰る。

朝昼食共にそうめんだったので空腹極まり、十八時過烏山大昌園で焼き肉。二〇時松坂屋山田氏と連絡がとれて、連休明けに会う事になった。名古屋世界デザイン博の時、ガウディの城を名古屋城に作った時のスポンサーが名古屋松坂屋で、彼はその時の担当者であった。あのプロジェクトは磯崎アトリエの丹下氏、藤江氏とも一緒だったし、山口勝弘さんも映像で協同した。巡り合わせを感じる。今日は四月には異常な暑さだった。